

リフレッシュ理科教室決算報告書 (1/2)

2025 年 12 月 02 日

公益社団法人 応用物理学会
リフレッシュ理科教室 WG 代表者様

開催支部または分科会（支部・分科会以外に共催がある場合はすべてお書きください）： 応用物理学会中国四国支部、岡山理科大学科学ボランティアセンター（共催）
開催責任者（支部長または分科会幹事長）： 鶴田 健二(岡山大学)
開催連絡責任者： 米田 稔(岡山理科大学)
連絡先： 〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1 Email yoneta@ous.ac.jp TEL 086-256-9402

以下のとおりご報告いたします。

(全会場分の収支をまとめてご記載、もしくは会場毎収支のご記載、どちらでも問題ありません。
会場毎収支をご報告の場合は当ページを会場数分複製の上、ご報告ください。
対面実施形式とオンライン実施形式で報告書の様式が若干異なります。)

事業名：リフレッシュ理科教室 新しい理科実験の習得とスキルアップ講座 2025	
リフレッシュ理科教室補助金額： 180,000 円	
開催日：令和 7 年 11 月 23 日(日)	
催場所：岡山理科大学	
決 算（収入合計と支出合計は同額になります） (単位：円)	
収 入	支 出
リフレッシュ理科教室補助金 180,000 円	印刷製本費 (資料・チラシ作成等) 110,385 円
広告展示料	賃借料 (会場費・プロジェクター等) 0 円
支部分科会からの支援金 270,000 円	会議費 (弁当代等) 29,097 円
企業からの協賛金	通信運搬費 (郵送料等) 45,420 円
助成金（県・市など）	消耗品費 (実験材料・文具代等) 182,574 円
寄付	臨時雇賃金 【支払人数計 3 名】 (アルバイト賃金等) 30,450 円
他学会より	諸謝金 【支払人数計 2 名】 (講師謝礼等) 37,000 円
	雑費（振込手数料等） 3,387 円
	本部への返金 (or 支部・分科会への戻入れ) 11,687 円
合 計 450,000 円	合 計 450,000 円

決算報告書は、支部（分科会）会計後 1 か月以内に応物事務局リフレッシュ理科教室担当宛まで各支部長・分科会幹事長に CC で共有の上メール添付（WORD 形式）にてご提出ください(原本不要です)。講師謝礼金やアルバイト代については、支払人数を必ず記載してください。

リフレッシュ理科教室実施報告書 (2/2) (対面実施形式)

以下のとおりご報告いたします。

事業名：リフレッシュ理科教室

新しい理科実験の習得とスキルアップ講座 2024

ー物理的・化学的な事物や現象の理解に役立つモデル教材づくりー

開催日： 2025年 11月 23日 (日)

開催場所 (同じ場所で複数回開催する場合は、日付も複数日ご記入ください)：
岡山理科大学 (〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1)

参加者人数

- ① 生徒・児童 : 高校生 0名, 中学生 0名, 小学生 0名
- ② 保護者・一般 : 10名
- ③ 教諭等 : 11名 (高校教諭 1名、中学教諭 10名、小学校教諭 0名)
- ④ スタッフ等 : 13名 ※こちらには指導員やアルバイトの人数を記載ください。保険料の算出に使用します。

内容 (委員会での検討や本部への報告書作成のため、各会場の特徴や工夫していることなどについてご記入下さい。)

例：各会場の運営や参加対象などの特徴、教員対象の講演会・講習会、教育委員会との連携、地方公共団体との協力、他の団体との協力など。また、補助金に対する要望事項、他支部でも参考になる事項、良かった点、悪かった点など

※ここに掲載する写真等は応用物理学会 HP に掲載しても良い内容でお願いいたします。

※肖像権などにご配慮いただき、後ろから撮影した写真等をご利用ください。

令和7年度リフレッシュ理科教室 (第16回岡山会場) を**対面形式**で開催しました。今回の企画の開催に当たり、岡山理科大学科学ボランティアセンターからご共催、岡山県教育委員会、日本物理教育学会中国四国支部、応用物理学会教育分科会からご後援を戴きました。以下に実施内容をご報告を致します。

【リフレッシュ理科教室(岡山会場)の目的】

我が国を担う未来の科学技術者の「育成」の一助となるべく、無限の可能性を秘めた生徒児童の自然科学への関心や理解の向上に寄与することを目指し、主に義務教育課程の教科「理科」の授業支援のために補助教材作成に取り組みます。

【内 容】

本企画は2部型式で実施しました。第1部では、「理科」授業の冒頭における話題提供を目指して特別講演 (科学談話会) を、各分野でご活躍中の研究者にご自身の体験等を踏まえてご講演を戴きました。第2部では学校教育現場の実情に詳しい講師陣から、身近な材料を利用して理科授業のための補助教材の提案後、参加者に理科工作に取り組んで戴きました。

参加者数は21名 (現職教諭11名、一般10名) でした。教諭のご所属は中学校教員10名、小学校0名、高校1名でした。参加者の大半は岡山県内在住の方ですが、県外から2名が参加しました。参加者は教育機関宛てに配布したチラシ、知人からの紹介を通じて参加され、学校教育に携わっている現職教諭向け企画への参加者を募集するには継続的な活動の重要を感じます。尚、岡山会場は児童・



第1部：特別講演 (科学談話会)
講師：滝澤 昇 (岡山理科大学 教授)

生徒の参加者を募集していないため、それらの参加者数は0名となっています。

第1部では、滝澤 昇 氏（岡山理科大学 教授）から「ダイコン乳酸菌と桜花酵母～野生微生物を用いた発酵食品による地域創生～」と題して、大根から分離した乳酸菌を利用した豆乳ヨーグルトと、桜から分離した酵母を用いた清酒の開発・製品化までの経緯について紹介して戴きました。本講演から、多種多様な微生物が元素循環における重要な役割を担っていることを理解することで、微生物について学ぶことが併せて環境教育の一端を担えることを学びました。第二部では教科「理科」補助教材として、3件の理科工作実習（テーマ：①磁界観察容器の作成、②角運動量保存則について考察する実験器具の作製、③発光ダイオードでゆれる光を作ろう）に取り組みました。

参加者全員で意見交換を行い、中学校の教諭より、「物理」と疎遠になっていたが教材作製講座に参加して教材を通じて興味関心が深まることを実感することができた、中学2年で磁石を扱うときに磁石が形成する磁界を可視化する教材は教える側にも“伝えたい意欲”を湧かせる、昨年度の企画で製作した教材から自然現象について考える機会を得て、本企画に参加して感じる“日々勉強”という感覚を子供たちにも伝えたい、とのことでした。一般参加者（社会人）から、AIやChatGPTに頼りがちな人が増える傾向が有り、本講座のような理科の基礎実験に取り組んだ経験の重要性が高まっている。また、企業視点から本講座で紹介される教材の完成度に頭が下がる、とのコメントを戴きました。高校教諭から、「科学の甲子園」に参加して生徒が興味関心を掻き立てられるような支援には、日頃からの教材作り等の情報交換によって得られる深みが役立つと思う、等の発言があった。

【インフルエンザ等の感染症対策について】

主会場は、R7年度のインフルエンザ患者数が増加し、コロナ感染症への罹患を軽減するために、収容定員100名を超えるスペースを利用しました。また、イベント実施中は通常喚起に努めました。

【教育委員会および学協会等との連携について】

- ① 岡山理科大学 科学ボランティアセンターと“共催”することで会場費を無料にして戴いた。
- ② 岡山県教育委員会のご後援を戴き、岡山県内の全ての中学校と岡山市内の小学校の学校長および理科教科主任宛にダイレクトメールを送付することができた。
- ③ 岡山県中学校教育研究会 理科部会を通じて、岡山県内の中学校理科教員の皆様へ周知を行った。
- ④ 岡山県高校教育研究会 理科部会(物理)において、高校理科教員の皆様へ周知を行った
- ⑤ 岡山県小学校教育研究会 理科部会を通じて、岡山県内の小学校理科教員の皆様へ周知を行った
- ⑥ 日本物理教育学会中国四国支部および応用物理教育分科会からご後援を戴き、各会会員の参加を募った。

【個人向けの周知活動について】

- ① 岡山県内外の個人（教職員および一般参加者）へ周知した。<https://annex.jsap.or.jp/chushi/news/3683/>
- ② 共催機関（岡山理科大学）のホームページに掲載案内を掲載した。
<https://www.ous.ac.jp/event/detail.php?id=420>
- ③ 科学技術振興機構(JST)が運営するサイエンスポータルサイトの開催情報コーナーへ掲載依頼をして、支部内外への周知を行った。<https://scienceportal.jst.go.jp/events/19170/>



第二部：理科工作実習 講座

上段左 磁界観察容器の作成 / 上段右 角運動量保存則について考察する実験器具の作製 /
下段中 発光ダイオードでゆれる光を作ろう

実施報告書は、リフレッシュ理科教室開催後1か月以内に応物事務局リフレッシュ理科教室担当宛まで各支部長・分科会幹事長にCCで共有の上メール添付（WORD形式）にてご提出ください（原本不要です）。